

さて、右尾根に出たところ、登山道があるではないか。帰りはここを利用しようということになり、再び小根沢に下降する。

沢に降りてから、少し下ってF11を見に行った。F11の上にはF12 8mがあって、2段滝になっていることを確認する。この後は平凡な沢歩きである。

ツメは、右尾根に取り付きたかったのだが、スラブとなっていて、とても登れそうになかったので、左尾根にした。ここは上部がすべてスラブとなっている。わらじのフリクションがよくきく。左尾根10:25着。

尾根に出たらきっと道があるだろうという、私達の期待虚しく、ひどい藪こぎが続く。道の形跡など全然ない。また、本当は小根沢と水汲沢を分ける長い尾根に出るはずだったのが、方角を間違えて他の尾根に入ってしまった。あれやこれやでともかくひどい藪こぎを2時間やって、登山道のある所に出たのが12:25である。この後は、楽しい話もできるようになり、ルンルン気分で降りてきた。途中に綱があった。

(記)

[タイム] 会津水沼駅(6:40)→遊行終了・尾根(10:25)→会津水沼駅(13:20)

きたのこ沢左俣

1983年8月27日

L

上田ダムより踏跡をたどって、吊橋の所から入溪。しばらくは広い河原で、小沢が合流するだけ。二俣の手前で沢幅が狭くなり、カマがある。これを越えた所が二俣(右俣出合)である。

左の沢にルートを取り、すぐの釜をへつって越えると、兩岸が岩場となり、右岸よりガリーが数本続いて合流して、また二俣(中俣出合)となる。また左に入る。

沢が逆S字状に曲がり、左岸に岩場を見て進むと、いくつかチョック滝が続く。途中残置ハーケンをみる。左右から何本も小沢が合流する中を進む。F1 3mは軽く通過。F2 4mひょうり滝も過ぎ、F3 3mを越えると、右岸の岩場より20mの滝となって支沢が合流する。支沢のくせに本流より水量が多い。

続くF4、F5をなんなくパスして先に進むと、ガリーが何本か合流して二俣となる。右に入る。ここらあたりからはいくつも同格の沢が合流しているので、地図をみながら滝のかかっているような沢を選んで進む。

三俣の先のF7 12m 2段の滝は、左のガリーを登って、次のチョックストーン滝までトラバースして播く。その先の二俣は、右が20m滝、左がF9、F10と続く所で、右の20m滝を登り、トラバースして左の沢に移る。

ここより沢は平凡となった。そのうち水もなくなって、岩場となる。これを登った所が尾根であった。

(記)

【タイム】 出合・吊橋(8:00)→右俣出合(8:30)→中俣出合(8:50)→尾根(12:15)

きたのこ沢
中俣(下降)

1983年8月27日

L

12:30 下降開始。中俣に向けてⅢ級ほどのスラブをブッシュを頼りに降りる。20mの滝を下って本流へ。

左俣が平凡だったのとは反対にこの中俣は、滝が連続して出てきた。源頭のスラブといい、今度この沢に入ることがあったら、ちゅうちょなく中俣を登って、左俣なり右俣なりを下ることにしたいと思う。

まずF13 12mの左岸をアップザイルにて下る。F12はクライミングダウンしたが、F11は右岸よりを懸垂下降。下が釜なので、へつってからザイルを回収する。

沢が直角に曲がる所にかかるF10とそれに続くF9は、1本のザイルで一気に降りてしまう。F8はクライミングダウン。F7 4mを過ぎ、F6もまた右岸をアップザイルにて降りる。F5は水に入るのがイヤ

